



長州物産株式会社 (長州苑)

今月号では、長州物産株式会社の河野貴史代表取締役社長にお話を伺いました。



西の京やまぐち物産館

長州苑

Choshuen

主要事業	観光客向け待遇施設・大型食事施設運営、土産品・贈答品販売、カフェ運営
所在地	〒753-0095 山口市木町1-6 TEL: 083-925-5850 FAX: 083-925-6200
代表	河野 貴史
H P	http://www.choshuen.co.jp/
I G	https://instagram.com/choshuen/



●会社沿革

- 1975年 長州物産株式会社設立
- 1989年 香山公園の隣で「長州苑」の営業開始
- 2016年 瑠璃光寺五重塔前と雪舟庭前の店を店舗統合
- 2022年 リニューアルオープン

●会社概要

当社は、山口の観光名所のひとつである国宝「瑠璃光寺五重塔」の側に「西の京やまぐち物産館 長州苑」を構え、山口の名産品を取りそろえた売店や、瓦そばなどの名物料理を楽しめるレストランを運営しています。そのほか、テイクアウトメインの「5縁CAFÉ」運営や伝統工芸体験サービスも実施しています。

創業当初は常栄寺雪舟庭前に店舗を出して、主に団体観光客向けの事業をしていました。その後、先代社長が瑠璃光寺五重塔前に支店を開きました。

元々は雪舟庭前の店舗を主体として事務所もそちらに置いていたのですが、2014年に私が社長に就任した後に店舗統合し、瑠璃光寺五重塔前を本館に変えました。

社長を交代する際、「何のためにこの会社があるのか」を自分の中に落とし込まなければ後は継げないと思い企業使命を考えました。「山口の魅力を発信し続ける拠点となり、『山口に行ってみよう』を目指します」「心地よい時間・場所・空間を創り出し、『山口にもっと居たい』を目指します」などを掲げています。

「使命」というのは私が大切にしている言葉なのですが、漢字の通り「命を使って取り組む覚悟」を示そうと考えました。昨年9月に長州苑をリニューアルオープンしましたが、所々でこの企業使命を意識しています。



香山公園駐車場に直結したカフェ入口

新型コロナウイルスの影響で信じられないほどお客さんが来なくなり、売上は大幅減少で経営状況は大変厳しいものでした。どこにも営業に行けず、スタッフには休んでもらうしかなく、まさに八方塞がり、為すべなしとはこのことかと思いました。

いっそ観光とは違う仕事をしようかと考えたこともあったのですが、やはり観光名所の側にありながら全く違うことをするのは山口の観光にとって損失につながると考えました。「観光業と心の中しよう」と決め、事業再構築補助金も受けられたことからリニューアルに向けて動き始めました。



店舗外観

●当社の特徴 ～ 山口のいいものを長州苑から発信 ～



新設した休憩スペース

のいいものを発信できる施設を目指すということです。

リニューアルでは、バス駐車場となっていた既存店舗の前面に平屋を新築して売店を既存の建物から移動させ、カフェを新設しました。また、雪舟庭前(別館)は本館の団体食事会場が満席になった際に使うというスタイルを取っていたのですが、リニューアルするとともに別館は解体し、瑠璃光寺五重塔前に一本化しました。

新規オープンした「5縁CAFÉ」は、五重塔を連想させる「5」と、人との繋がりを意味する「縁」を合わせたネーミングにしました。リニューアルにおいて重要視していたのは「地元コラボ」をして、地元



5縁CAFÉのメニュー看板

カフェではNishida Coffeeとコラボしたオリジナルブレンドのコーヒーや、秋川牧園の牛乳ソフトクリーム、昭ちゃんコロッケなど、山口の各事業所に協力してもらい、山口ならではの美味しいものを提供しています。

リニューアルをきっかけにInstagram（インスタグラム）での発信にも力を入れるようにしました。「インスタ映え」を意識して開発したのが「5緑CAFÉ」で提供している「飲む外郎」です。1日に約100杯売れる日もあるなど、カフェの名物になっています。

最初はアイスの飲む外郎から開発を始めました。わらび餅を使ったドリンクのように、何らかの飲み物に細かく切った外郎を入れようとしていたのですが、あるスタッフが「外郎をそのまま飲めばいいのでは」とつぶやいたことから、その方向で見た目と味のバランスが取れるよう試作を繰り返していきました。主に開発を担当していたスタッフと店長、私の3人で試飲を繰り返していたのですが、半年かけてようやく3人が納得できるものが出来上がりました。外郎とほとんど同じ材料を使ってプルプル食感をそのまま楽しむことができ、ホイップクリームに黒蜜をトッピングして写真映えする仕上がりになり、様々な試行錯誤を経て販売に漕ぎ着けました。

アイスに続き、昨年冬にはホットの「飲む外郎」も販売を始めました。インスタ映えするようにしたかったのですが、アイスと同じようにホイップクリームを乗せるとすぐに溶けて見た目が悪くなってしまったため、外郎らしさはなくなってしまうのですが、牛乳で割って、もち麩をトッピングすることにしました。これからさらに改良していく可能性はありますが、船方農場の牛乳を使うなど、山口のいいものを取り入れられるよう材料にはこだわってつくっています。

カフェカウンター前には休憩スペースもつくりました。以前から「この辺りには座るところがないね」と耳にすることが多く、気になっていたのです。カフェの近くにあるのでイートインスペースと思われるかもしれませんが、誰でも座っていただいていいような場所としています。

また、モノ消費だけでなく、コト消費にも対応するべく、伝統工芸体験事業も始めました。売店を新築した店舗に移動したことに伴い、既存店舗は1・2階とも食事会場に変え、計360名を収容できる施設にしました。お昼の時間帯（11～14時）以外には予約制で伝統工芸体験サービスを提供できるようにしました。

「大内人形の絵付け体験」は中村民芸社さんに、「徳地和紙折り染め体験（タペストリー作り）」は徳地和紙ワークスさんにご協力いただいて当社のスタッフがそれぞれから作り方を習うなど、準備を進めました。大内人形の絵付けは、本来漆を使用しますが、アクリル絵の具を使うことで、どなたでも体験していただけるようにしています。また、徳地和紙折り染め体験は、数種類の中から好きな色を選んで和紙に染み込ませていくのですが、どなたでも綺麗な模様をつくることができます。

まだまだ団体客はコロナ前の水準と比べて少なく、売上も厳しい状況が続いていますが、改修前と比べると入店率は間違いなく上がりました。振り返ると、リニューアルオープンした際に行動制限はなくなっていましたし、良いタイミングで開くことができたと思います。



大内人形 絵付け体験の様子



徳地和紙折り染め体験でつくるタペストリー



飲む外郎
(アイス/ホット)

●今後の展開 ～ 「地元コラボ」を推進、アンテナショップを目指す ～

これまではずっと県外や団体のお客様ばかりを見ていたところがあります。売店には品切れにならないようストックできる賞味期限が長い商品や、大量生産が可能な箱菓子が多く並ぶようになっていましたが、商売のあり方を見つめ直しました。もっと内側に目を向けて、山口市内・県内のいいものをなるべく扱うように変えました。地元の方に選んで来ていただけるお店をつくることは、巡り巡って観光客の方にも絶対に喜んでいただける場所になると考えます。

先日、秋穂の干しえびを仕入れようと、様々なえびの商品を提供されている事業者と相談したことがありました。干しえびは売店で販売でき、生きエビを直送してもらえればネットショッ



5緑CAFÉの販売カウンター



リニューアルした売店

プでの販売も可能です。えびコロッケも扱われていて、カフェで調理して販売することもできるなど、「よりよいものを発信するための様々なツールができた」ということを改めて実感した出来事でした。事業所の規模に関わらず、素晴らしい商品を扱われているところはたくさんあります。売店に置いて委託販売をさせていただいたり、カフェで提供したりして人気を広まる可能性も考えられます。

今後も「地元コラボ」を合言葉に、県内・市内の事業所とコラボレーションして当社をうまく活用していただき、地元のいいものをより発信できるアンテナショップのような存在を目指していきたいです。